

横浜開港資料館 平成 28 年度第 1 回企画展示

ハマの大地を創る ー吉田新田から近代都市へー

1. 展示会期など

- 会 期 : 平成28年4月15日(金)～平成28年7月18日(月・祝)
会 場 : 横浜開港資料館 新館 企画展示室
開館時間 : 午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)
水曜日は午後7時(入館は6時30分)まで開館
観 覧 料 : 一般200円、小中学生100円
休 館 日 : 月曜日(7月18日は開館)
主 催 : 横浜開港資料館
共 催 : 横浜市教育委員会
協 力 : 横浜セントラルタウンフェスティバル実行委員会、NPO法人横浜シティガイド協会
後 援 : 朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、
日本経済新聞社横浜支局、毎日新聞横浜支局、読売新聞東京本社横浜支局、
NHK 横浜放送局、tvk

2. 展示趣旨など

市役所や県庁などが所在する横浜市域の中心部は、かつては元町あたりから北へと伸びる横浜村の砂州と、それによって東京湾と区切られていた入海でしたが、江戸時代の新田開発により、次第に田や畑といった耕地へと変わります。結果的に、この入海の陸地化が開港場の建設を容易にするとともに、その後における都市域が拡大する用地を準備したことになります。江戸時代における新田開発が近代横浜の基盤を創り上げたのです。

この入海に成立した新田の内、最も早くかつ大規模であったものが吉田新田です。江戸の材木商人である吉田勘兵衛によって開発されたこの新田は、350 年程前の寛文7(1667)年に完成しています。吉田新田の開発により、入海の約8割が陸地となりました。その後、残された入海も 19 世紀初めから半ばにかけて、横浜新田・太田屋新田として開発されていきます。

本企画展では、こうした 17 世紀半ばから明治初年までの約 200 年間にわたる入海→新田→近代都市という横浜都心部の景観の変貌について、その起点となった吉田新田の開発を中心に紹介します。

3. 展示構成

- | | |
|------------|--------------|
| 1 開発前図を読む | 6 吉田新田の完成 |
| 2 開発図を読む | 7 吉田家による新田経営 |
| 3 吉田勘兵衛 | 8 横浜新田と太田屋新田 |
| 4 干拓はじまる | 9 開港から近代都市へ |
| 5 米づくりの始まり | |

4. おもな展示資料 （全展示数 約120点）

① 吉田新田開墾前図（開発前図） 吉田興産株式会社所蔵

吉田新田開発前の入海の状況を描いた図面。方位は、おおむね上が西、下が東に相当する。中央上部で「入海」へ流れ込む河川は大岡川である。左下の横浜村より右へと伸びる砂州＝「宗閑嶋」により「大海」（東京湾）と区切られ、「入海」となっていた吉田新田開発以前の大岡川河口部の景観を知ることができる。

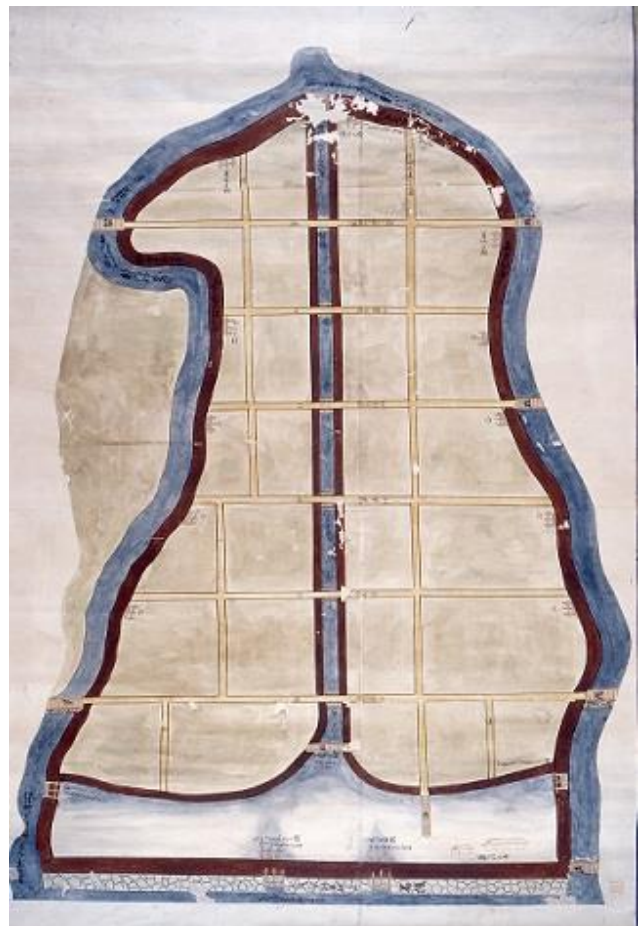
画面中央にある「入海」の文字を境として、船の描写に大きな違いがみられる。「入海」より下部には十数艘の船が描かれているのに対して、「入海」より上部の海に船は一艘も描かれていない。入海の上部は船が航行困難な浅瀬であったことを意味しているよう。海が浅いことは新田開発の適地ということになる。一方、入海の下部は一定度の深さということになる。つまりこの入海の海底は浅い上部＝西側から深い下部＝東側へと傾斜していることが想定され、開発地の周囲に堤防を築いて、その内部の海を干上がらせれば、西→東へと傾斜している海底が露出することになる。



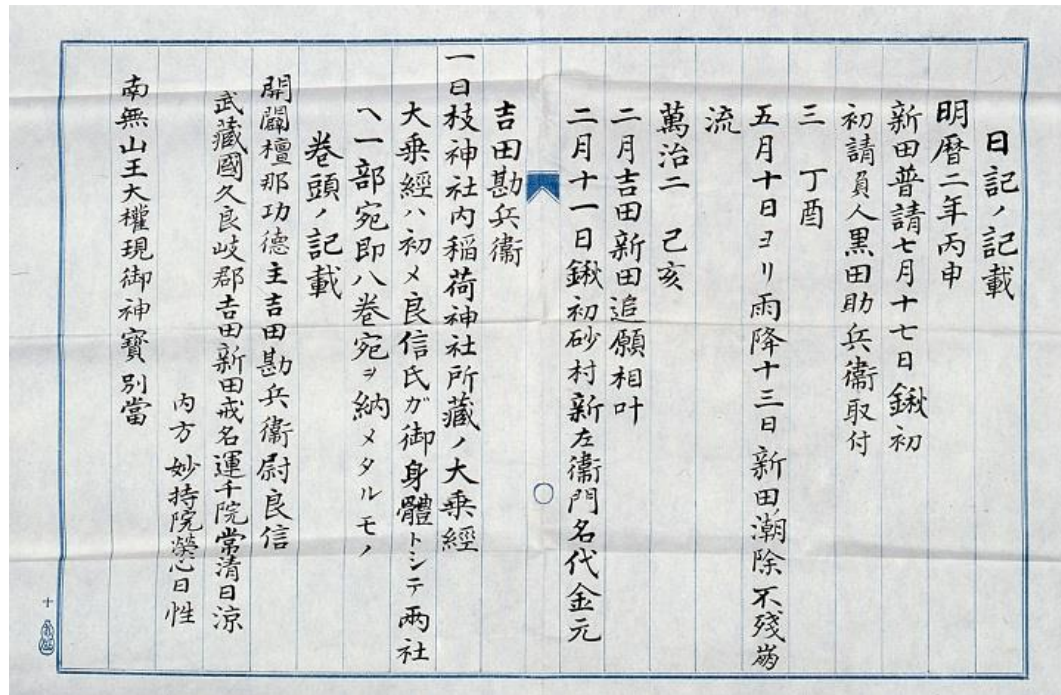
② 吉田新田開墾図（開発図） 吉田興産株式会社所蔵

方位は「開発前図」と同じく上部が西、下部が東となる。新田の堤防に沿って上＝西から下＝東へと流れる川は、右側が大岡川、左側が中村川である。新田の真ん中を一直線に上下に流れているのが、新田全体へ用水を回す水路の根幹となる中川である。大岡川と中村川の新田側には堤防がみられる。南北に伸びる海側の堤防は潮除堤と呼ばれ、波に対する護岸のため石垣が組まれている。

なお、中村川の流路は本来の海岸線よりも右側に屈曲している箇所がみられる。その理由は不明であるが、当初の計画において新田の一部が中村川の堤防の外側に設定されていたことになる。実際の開発においても、「開発図」とは位置や規模において若干の相違はあるものの、中村川の堤防よりも外側に吉田新田の耕地が存在していた。



③ 日記ノ抜書 吉田興産株式会社所蔵



大正13年(1924)の関東大震災で焼失した吉田勘兵衛の日記より、明暦2年(1656)7月の工事開始、翌明暦3年(1657)の大雨による堤防の崩壊、万治2年(1659)の工事再開などの箇所を抜き書きしている。吉田新田の開発過程を知る上で貴重なもの。

④ 新鐫^{せん}横浜全図 明治3年(1870) 当館蔵



明治3年に作成された都市化した横浜と周辺を描く地図。画面中央には「関内」が配置され、「象の鼻」の突堤が海へと伸びている。それより左側が外国人居留地、右側が日本人の居住地である。元町と「関内」の間には堀川が開鑿され、かつての砂州と横浜新田・太田屋新田が「関内」の範囲である。

「関内」のすぐ上には水をたたえた沼地があり、これが吉田新田の「南一つ目沼」である。「関内」と吉田新田の間には現在のJR根岸線に該当する派大岡川の水路があり、大岡川と中村川に囲まれた範囲が吉田新田で後に「関外」と呼ばれる。「関内」に近接した部分は町場化しつつあるが、それより離れた上部には依然として水田が広がっている。

5. 展示関連事業

●展示関連講座「吉田新田を学ぶ」

展示担当者によるテーマごとの解説講座

- 〔日程・内容〕 第1回:5月14日(土)「吉田新田の開発」
第2回:6月18日(土)「横浜新田・太田屋新田の開発」
- 〔時 間〕 14:00～16:00(各回)
- 〔会 場〕 横浜開港資料館 講堂
- 〔参加費〕 1回につき500円
- 〔定 員〕 当日先着80名
- 〔受付方法〕 当日13:30より会場にて受付

●展示説明会「吉田新田を知る」

展示担当者による展示の概要説明

- 〔日 程〕 第1回:5月21日(土)、第2回:6月25日(土)
- 〔時 間〕 14:00～15:00(各回)
- 〔会 場〕 横浜開港資料館 講堂
- 〔参加費〕 無料(入館券が必要です)
- 〔定 員〕 当日先着50名
- 〔受付方法〕 当日13:30より会場にて受付
- * 夜間開催 *
- 5月25日(水)・6月22日(水)の18:00より30分程度(各回)
入館券をお持ちのうえ、2F 企画展示室前にお集まりください。

●横浜シティガイド協会主催「吉田新田を歩く」

横浜シティガイド協会の案内による吉田新田の「まち歩き」

- 〔日 程〕 第1回:6月4日(土)、第2回:6月21日(火)
- 〔コ ー ス〕 9:30京急南太田駅集合～お三の宮日枝神社～天神坂～
12:00京急日ノ出町駅解散(予定)
※2回とも同じコースです。
- 〔定 員〕 50名
- 〔申し込み・お問合せ〕 横浜シティガイド協会
Fax:045-228-7693、Tel:045-228-7678
またはホームページ(<http://www.ycga.com/>)から

6. その他

●展示図録の販売『ハマの大地を創るー吉田新田から近代都市へー』

A4判、16頁、432円(予価・税込み)

●5月28日(土)、29日(日)、6月2日(木)は入館無料です。

●Y157横浜セントラルタウンフェスティバルとの連携

本展示はY157横浜セントラルタウンフェスティバル参加プログラムです。
横浜開港資料館は、同フェスティバルのウォークラリーポイントとなっています。

お問合せ先			
横浜開港資料館	展示担当	斉藤 司	TEL 045-201-2149
	副館長	西川 武臣	TEL 045-201-2100

* 画像データをご要望の場合は右へ、ご連絡ください。横浜開港資料館 広報担当 TEL: 045-201-2100